



TITLE:

静脩 Vol. 5 No. 2 (1968.7) [全文]

AUTHOR(S):

CITATION:

静脩 Vol. 5 No. 2 (1968.7) [全文]. 静脩 1968, 5(2)

ISSUE DATE:

1968-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/65925>

RIGHT:

京大図書館と私

小川環樹

私のこれまでの生活の大半は書物を相手にして過ぎてしまった。従って図書館との因縁はたいへん深い。学生のころ、今の旧書庫の西、すなわち教育学部の建物のところに在った大閲覧室の片すみで、勉強に疲れると、小説類を借り出して頭を休めた。「即興詩人」の英訳をよみ、デンマーク語に興味をおぼえ、少し片端をかじりかけてやめたのも、その閲覧室でのことだったし、鏡花全集を何冊もよんだし、柳田国男氏の「石神問答」などそのころ絶版であった本を見つけ、著者の署名をながめて、うれしく思ったのも、そのころである。記憶をたどると、京大図書館で読んだ本といえ、たいへん私の専門に直接の関係がないものが多い。

それにつけて思い出すのは、小学生の時分、姉につれられ、始めて岡崎の府立図書館へ行った時のことである。姉は私が小説ばかり借りて読むのを見て、「もっとためになる本をよみなさい」と言った。その癖は今日まで何十年、少しも改まらない。しかしスポーツは何一つせず、趣味らしい趣味もない私にとって、図書館は恐らく最大の楽を与えてくれたと思う。

京大図書館に正式に勤務したことは一度もないが、昭和十二年の秋から約半年、目録編成のお手伝いをしたことがある。当時の館長は羽田亨先生であった。どうしてそんな仕事を与えられたかと言うと、その前年、私が文学部の副手として、支那学会大会に展覧するための「近衛文庫漢籍目録」を作ったことがあったからではないかと思われる。近衛家の蔵書は当時まで長く京大に寄託されていた（陽明文庫ができたのは戦争中である）。目録は五十音順にならべたのが早くできていたが、私の任務はその中の漢籍を（和刻の普通本を除き）えらび出して経史子集の順序にならべかえることであった。そのために私は二か月ほど費やし、全部の漢籍に目を通し、内容と版本を確かめねばならなかった。このとき図書館のかたがたに非常なお力ぞえをいただき、特に的屋勝氏にはお世話になったし、司書官の山鹿誠之助氏はいろいろ教えて下さった。古版本についての私の知識はこのとき得たものであった。

十三年に私は仙台へ行ったので、戦後二十五年に京大へ戻るまでは空白になる。古い大閲覧室はたぶんその間に或る事故で焼失した。そこをまた訪れることができないのは、ほんとうにさびしい。それでも図書館というと、私はきまって最初にあの学生閲覧室を思い浮べる。高い天井の下のうすぐらい電燈の下で、あまり「ためにならない」本を読みふけていた制服の学生。その時代は二度とかえらないのはぜひもないとして、図書館の効用は専門書だけにあるのではなく、老子のことばで言えば「無用の用」にあるのではないか、とも思うことがある。

（文学部教授）

一言・ふたこと

それは規程では許されないのだが）せざるをえなくなる。また、雑誌についての最後の手

(法学部助教授 奥田昌道)



今までこうした試みがなされていなかったので少し驚いたが、結果をみると、やはり図書館に対する強い不満が表明されている。例えば座席数は1,000人以上の座席要求が80%もあり、特に夏をひかえて利用度が高くなるにもかかわらず少ないままである。また、講読室等の要求は80.7%もあり、閲覧時間の延長についても58%の要求がある。職員との話し合いの中で現在の労働強化、人べらし政策についても少しわかったので、職員の犠牲において行なうのではなく、夜間専従者を置くとか、前進的な形での実現を願いたい。

△ 利用手続など学生に

利用手続など学生に
利用させるための宣伝
をしてほしい。館外貸

(法学部一学生)

大学図書館界の動き

国立大学図書館協議会発足す

昭和29年に発足した全国国立大学図書館長会議は、国立大学図書館の改善のため、大いに尽くすところがあったが、大学図書館の近代化に対する各方面からの要請の高まりとともに、従来の組織を根本的にあらため、機構を強化する必要にせまられてきた。そこで、昨年いらい、組織強化のための特別委員会が設けられ（委員長 広島大学）、文部省とも事務的折衝の結果、新しい規約のもとに、従来の館長会議を解散して、6月7日創立総会が東京大学で開催された。

協議会の役員は理事20館、監事2館よりなるが、理事の互選によって、会長、副会長（2館）が選出される。理事は各地区から選出されるが、近畿地区選出の理事は阪大、滋賀大に本館の3館である。理事会での互選の結果、本年度の会長は東大、副会長として北大と本館が選ばれた。さらに20館の理事が、10館づつで2つの部会を作り、第1部会は図書館の管理問題、第2部会はそれ以外の問題の処理に当たることになるが、本館は第1部会に所属することになった。

そのほか、各種の特別委員会や調査研究班も置かれることになり、大学図書館の当面する問題に強力に取り組む体制はでき上ったわけで、今後の積極的な活動が期待されている。

国立国会図書館長との懇談会開かる

5月25日、河野国立国会図書館長を囲み、関西学院大学を会場として、国公私の大学図書館長との懇談会が開催された。この懇談会が関西地区で持たれたのは一昨年（会場 京都大学）につづいて、2回目であるが、24大学から42名が参加した。

今回の懇談会の議事の一つは、国会図書館で出している印刷カードの利用上の問題で、印刷カードを利用している神戸商大その他より、利用上の問題点および改善を望まれる点の指摘があった。業務量の増加に対処する方策のひとつとして、印刷カードの導入は、本館としても検討を続けている問題である。

1965年に成立したアメリカの高等教育法では、大学図書館の資料源を充実強化するため、議会図書館が世界的規模で、学術資料を収集し、中央目録作業を行なうことを規定している。そのため、議会図書館では、さっそく、National Program for Acquisition and Cataloging (NPAC) の検討を開始した。この種プログラムの日本における実現の可能性が、印刷カードの問題について取り上げられたが、深く討論を進めるまでにはいたらなかった。

展 観

トーマス・マン 展



5月8日より22日まで、本館において、ドイツの文豪トーマス・マン(1875-1955)の生涯・環境・作品展が開かれた。写真、遺品、著書、書簡、原稿等261点が展示され、多数の愛好者の観賞を得た。本展は日独文化研究所、京都ゲーテ・インスティトゥートおよび本館の三者共催の下に開かれ、前日の7日にはガリンスキー西独総領事、ケンプ日独文化研究所長、奥田総長を迎えて開会式が行われた。

学内の外国新聞一覧表

— 学内図書館（室）で現在継続中のもの —

国別	新聞名	刊行 区分	発行地	所蔵部局・年	備考
アメリカ合衆国	International Commerce	w.	Wash.	経 済・1962+	米国の外国貿易紙
	The Worker	w.	N. Y.	経 済・1958+	米国の労働問題紙
	The New York Times	w.	N. Y.	ア メ 研・1964+	週刊ニュース時評
イタリア	Rinascita	w.	Rome.	経 研・1964+	共産党機関紙
	La Fiera Letteraria	w.	Rome.	文 ・1946+	文芸評論紙 [1947, 1953, 1954-57]
イギリス	Board of Trade Journal (formerly "Board of Trade Jour. & Commercial Gazette)	w.	Lond.	経 済・1919+	貿易業界紙
	Shipping World & Shipbuilder	w.	Lond.	経 済・1964+	貿易業界紙
	The Times. Literary Supplement	w.	Lond.	法 養・1953+ 教 文・1923+ 文 ・1928+	文芸評論紙 [1924-25, 1941-51] [1942-48, 1951-52, 55-59]
	The Times. Educational Supplement	w.	Lond.	教 育・1923+	教育に関する評論紙[1951]
	The Listener	w.	Lond.	教 養・1956+	B. B. C. の機関紙
	The Observer	w.	Lond.	教 養・1965+ ア メ 研・1964+	国際政治, 新刊批評に特色 のある日曜版
	Teacher	w.	Lond.	教 育・1964+	英国教職員組合機関紙
ソ連	Правда	d.	Moscow.	法 養・1952+ 経 済・1951+ 経 研・1963+	ソ連共産党中央委員会機関紙
	Известия	w.	Moscow.	法 ・1952+	ソ連最高会議・幹部会機関紙
	Moscow News	w.	Moscow.	人 文・1965+	時事ニュース紙
中華人民共和国	光 明 日 報	d.	北 京	文 ・1954+ 東洋文セ・1955+	[1956, 1960, 1964] 各民主党派及び全国工商連 合会機関紙
	人 民 日 報	d.	北 京	経 済・1956+ 文 ・1953+ 東洋文セ・1966+	中国共産党中央機関紙 [1959, 1965]
ドイツ	Volkswirt	w.	Frankfurt a.M.	経 済・1962+ 経 研・1965+	経済と財政紙
フランス	Le Monde. (Hebdomadaire)	w.	Paris.	教 養・1962+	日刊の Le mode を海外向 けに編集した週刊紙
	Figaro Littéraire	w.	Paris.	教 養・1957+	文芸書評紙 (保守系)
フランス	Nouvelles Littéraires	w.	Paris.	文 養・1923+ 教 養・1952+	[1924-52] フランス文学評 論紙
	Lettres Française	w.	Paris.	教 養・1957+	[1961] 書評紙 (革新系)
マレーシア連邦	Malaysian Press Digest	m.	Kuala Lumpur	東 南 ア・1968+	マレーシア情報局刊行の新聞
	Malaysia	w.	Kuala Lumpur	東 南 ア・1966+	〃

(注) [] 内は欠号, 東洋文セ…東洋学文献センター, 東南ア…東南アジア研究センター

図 書 館 だ よ り

ご 存 知 で す か

◎ 委託国際交換図書について

諸外国へ交換図書を送付する場合、国立国会図書館連絡部国際課で委託業務を行なっているのをご存知でしょうか。送付出来る国は、これまで13か国でしたが、7月1日から※8か国追加され次の21か国になりました。利点としては、これを利用することにより、われわれは東京までの送料を負担するだけで海外に送付する経費は国会図書館が負担してくれることです（国立国会図書館国際交換資料受託規則参照）。

アメリカ合衆国、イタリア、オランダ、中華民国、スイス、スウェーデン、スペイン、デンマーク、フランス、東ドイツ、西ドイツ、ノルウェー、ベルギー、※チェコスロバキア、ユーゴスラビア、ニュージーランド、ルーマニア、フィンランド、ハンガリー、オーストリア、オーストラリア（ノーザン・テリトリー、サウス・オーストラリアを除く）

なお、国立国会図書館の所定の用紙で申し込むことができますが、事務処理を少しでも簡素化するため、送付する場合には次の2点にもご注意ください。

- 1) 図書のこん包と委託申込書（別途に提出する規則になっている）は、あまり送付日にずれがないように国立国会図書館に提出する。
- 2) 図書のこん包と委託申込書には同一の整理番号を付す。
（その他は委託国際交換図書依頼手続参照）

◎ 法学部学生自治会との話し合い

この話し合いは、第1回が5月6日、第2回が6月21日に開かれた。第1回の話し合いでは、閲覧室の照明を明るくすること、夜間の開館時間を延長すること、座席数の不足の問題等が中心になった。閲覧室の照明問題は本館としても、照度の不十分さを感じており、すでに予算要求をしているので、今しばらくご辛抱願いたい。夜間開館の延長、座席数の増加の問題は、職員数の問題や、建物面積の狭さという困難な問題に関連するので、今すぐ解決することは困難である。学生側としては今後図書館に対する要求を広く調査して、再度話合うことになった。

その後、法学部学生自治会は、本館利用者を対象としたアンケート調査を行ない、その結果にもとづいて、第2回の話し合いが開かれた。今回もとくに照明を明るくするよう、強い要求が出された。そのほか大きい問題は第1回と同じであるが、細かな問題について、本館として即刻改善に着手した点について報告しておきたい。

○8月1日から15日までの休館中も昨年通り、閲覧室は開室する。 ○閲覧室廊下の休憩用いすの数を増す。 ○便所の壁をきれいにし、ペーパーの補充をひんばんに行なう。
○季節により、閲覧室に直射光線が入る窓に、カーテンをつける。 ○各種利用案内をふやす。 ○購入希望図書を申し込む用紙を、閲覧室や閲覧事務室に備えて、申しいでの便宜をはかる。 ○自転車置場の増設について、図書館としても、事務局に交渉する。

今夏、閲覧室、参考図書室等の壁ぬりかえを全面的に行なうので、便所の壁ぬりかえはそのときになる。また、参考図書室の天井張りも行なうので、夏期の同室の暑さも、いく分かよくなるものと期待している。なお、この話し合いは、本館側として気づかなかった点などの指摘もあり、有意義であった。

昭和42年度京都大学増加図書統計

(昭和43年3月現在)

部局別	種別	増加数			累計		
		和書	洋書	合計	和書	洋書	合計
図書館		3,881冊	1,075冊	4,956冊	287,174冊	133,351冊	420,525冊
法学部		2,403	3,828	6,231	138,056	195,403	333,459
医学部		523	1,308	1,831	23,391	63,622	87,013
病院		164	200	364	8,238	19,219	27,457
工学部		2,909	6,716	9,625	65,354	113,248	178,602
文学部		4,625	4,872	9,497	319,174	171,831	491,005
理学部		1,180	5,806	6,986	24,890	122,713	147,603
経済学部		4,527	2,177	6,704	114,528	129,566	244,094
農学部		4,642	2,734	7,376	100,000	96,557	196,557
教育学部		2,105	1,161	3,266	17,333	19,347	36,680
薬学部		224	897	1,121	5,172	6,665	11,837
教養部		4,846	5,347	10,193	113,661	77,119	190,780
化学研究所		465	1,309	1,774	4,568	12,100	16,668
人文科学研究所		88,432	2,526	90,958	232,649	22,373	255,022
結核研究所		57	63	120	852	1,062	1,914
工学研究所		144	309	453	1,931	3,136	5,067
木材研究所		176	293	469	2,690	1,748	4,438
食糧科学研究所		149	127	276	1,679	1,902	3,581
防災研究所		414	709	1,123	3,004	3,550	6,554
基礎物理学研究所		282	955	1,237	1,411	10,849	12,260
ウィルス研究所		21	287	308	128	706	834
経理部		210	456	666	3,573	1,166	4,739
施設部		2	8	10	729	58	787
演習林		194	44	238	3,259	1,697	4,956
農場		2	0	2	950	93	1,043
工業教員養成所		322	207	529	5,976	1,201	7,177
経済研究所		1,280	798	2,078	8,890	4,628	13,518
数理解析研究所		257	2,882	3,139	876	12,428	13,304
原子炉実験所		615	1,069	1,684	3,022	5,569	8,591
霊長類研究所		6	0	6	6	0	6
合計		125,057	48,163	173,220	1,493,164	1,232,907	2,726,071
金額		94,972,105円	221,232,848円	316,204,953円			

あとがき いよいよ附属図書館の大閲覧室には冷房が入りました。比叡山頂ほどの涼しい室で大いにがんばって下さい。

小川先生の巻頭言は、利用者に精神的な慰楽を与えることも忘れてはならない点を図書館にご示唆くださっていると思います。

本号より「一言・ふたこと」欄を新設。利用者のかたの『学内図書館・室に対する声』をのせていきたいと思いますので、どしどしふるってご投稿ください。今後この欄を通して、利用者のかたと暖かい心の通い合う図書館へと大きく成長していきたいと考えています。4ページに紹介しました「学内の外国新聞一覧表」をぜひご活用くださるようねがいます。

京都大学附属図書館報「静脩」Vol. 5, No. 2 (通巻23号) 1968年7月15日発行・編集発行人：
岩猿敏生 発行所：京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電代表771—8111 (内線) 2220～2238